様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	1 人	2 人	5 人	0 人	8 人	8 人	8 人	0 人	共通 74 人 専門 12 人	15.3 人	
作業療法学科	1 人	1 人	5 人	0 人	7 人	6 人	7 人	0 人	（共通 74 人） 専門 16 人	9.1 人	
計	2 人	3 人	10 人	0 人	15 人	14 人	15 人	0 人	127 人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	統計学	15	小林 文美子	兼任
		生物学	30	西松 伸一郎・小島 史也・齊藤 峰輝・内藤 忠相	兼任
		医学英語	15	松本 晋輔・松本 琢磨・村上 朋彦	専任
		総合科学Ⅰ	30	矢吹 眞弓・村上 朋彦・学院専任教員	専任および兼任
		総合科学Ⅱ	30	有安 芽衣・小林伸江・松田 英希	専任
		総合科学Ⅲ	30	森川 芳彦・松本 晋輔・松本 琢磨・河島 隆貴	専任
		運動学序論	30	村上 朋彦	専任
		臨床心理学	30	湯淺 絢	兼任
		生命倫理学	15	福島 康弘	兼任
		保健体育実習	30	門利 知美・前岡 優里	兼任
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	荒木 慧・花山 耕三	兼任
		解剖学Ⅱ	30	佐藤 慧太	兼任
		解剖学Ⅲ	30	阿部 泰昌	兼任
		解剖学実習Ⅰ	60	大西 重徳・常久 謙太郎・阿部 菜海子・小林 伸江・他	専任

		解剖学実習Ⅱ	30	西奥 一雄・大西 重徳・常久 謙太郎・森川 芳彦・吉田 耕治	専任および兼任
		生理学Ⅰ	30	古我 知成	兼任
		生理学Ⅱ	30	細川 貴之	兼任
		生理学Ⅲ	30	高橋 尚	兼任
		生理学実習	45	古我 知成・細川 貴之・高橋 尚・氏川 拓也・松本 晋輔・松本 琢磨・山下 徹郎	兼任
		運動生理学	30	花崎 加音	専任
		神経生理学	30	村上 朋彦	専任
		運動学	30	村上 朋彦	専任
		運動学実習	45	村上 朋彦･大西 重徳･河島 隆貴･笈野 稔･花崎 加音･松本 晋輔･松本 琢磨･山下 徹郎	専任
		人間発達学	30	森川 芳彦	専任
専門基礎	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	30	西村 広健・松野 岳志・佐貫 史明・松野 芽衣・古味 和晃	兼任
		リハビリテーション医学Ⅰ	15	長谷川 智子	兼任
		リハビリテーション医学Ⅱ	15	花山 耕三	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	髙田 佳輝	兼任
		神経内科学Ⅱ	30	三原 雅史・逸見 祥司・大澤 裕・久徳 弓子・梶山 裕太・井上 剛・山下 眞史	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	永易宏一朗・増田和也・田村弘樹・三田雄大・山地崇仁・森山元気・伊野部淳・丹祐人	兼任
		整形外科学Ⅱ	15	増田和也・田村弘樹・松崎祐介・三田雄大・山地崇仁・森山元気・伊野部淳・丹祐人	兼任
		精神医学Ⅰ	15	小笠原 康人・本間 好花	兼任
		精神医学Ⅱ	15	宮﨑 哲治・森 祥子・田中 賀大・後藤 信太	兼任

				郎・白形 鷹博・江副 由佳	
		脳神経外科学	15	菱川 朋人・小野 成紀・井上 智・平井 聡・田尾 良文・枝木 久典・砂田 芳宏・多田 悠馬	兼任
		内科学Ⅰ	30	友田 恒一・白井 亮・太田 浩世・笹平 彬貴・仁科 惣治・三宅 智雄・葉 祥元・笹平 百世	兼任
		内科学Ⅱ	15	末盛 晋一郎・覺前 蕉・新川 平馬・常 泰輔・杉﨑 俊友	兼任
		一般臨床医学	30	上野 富雄・浅野 澄恵・井上 貴博・坪内 弘明・村田 卓也・中元 健太・鈴木 雄大	兼任
		公衆衛生学	15	伊藤 達男・清水 由梨香・山崎 晃	兼任
		小児科学	15	加藤　敦	兼任
		老年医学	15	杉 優子・杉 吉郎・山下 徹郎	専任および兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	30	村上 朋彦	専任
		理学療法概論	30	笘野 稔	専任
		言語聴覚療法概論	15	兼信 佳代・桐谷 光	兼任
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	30	山下 徹郎	専任
		基礎作業学講義	30	常久 謙太郎	専任
		基礎作業学実習	90	有安 芽衣・作業療法学科教員	専任
		作業療法研究法	15	小林 伸江	専任
専門	作業療法管理学	作業療法管理学	30	松本 琢磨・森川 芳彦	専任
専門	作業療法評価学	評価学Ⅰ	30	阿部 菜海子	専任
		評価学Ⅱ	30	阿部 菜海子・河島 隆貴・小林 伸江・松田 英希・森川 芳彦・山下 徹郎・吉田 耕治	専任

		評価学Ⅲ	15	有安 芽衣	専任
		評価学基礎実習	45	山下 徹郎・阿部 菜海子・河島 隆貴・小林 伸江・松田 英希・吉田 耕治	専任
専門	作業療法治療学	精神障害治療学Ⅰ	30	有安 芽衣	専任
		精神障害治療学Ⅱ	30	有安 芽衣	専任
		精神障害治療学Ⅲ	30	有安 芽衣	専任および兼任
		身体障害治療学Ⅰ	30	山下 徹郎	専任
		身体障害治療学Ⅱ	15	阿部　菜海子	専任
		身体障害治療学Ⅲ	15	山下 徹郎	専任
		身体障害治療学Ⅳ	30	松本 琢磨	専任
		身体障害治療学Ⅴ	30	常久 謙太郎	専任
		身体障害治療学Ⅵ	30	池上 弥那美・小林 伸江	専任および兼任
		発達障害治療学	30	岩地 風香・森川 芳彦	専任および兼任
		作業療法治療学	45	松本 琢磨・作業療法学科教員	専任
		日常生活活動学	30	阿部 菜海子・小林 伸江	専任
		日常生活活動学実習	45	小林 伸江・常久 謙太郎・松本 晋輔・松本 琢磨・吉田 耕治	専任
		技術論実習	45	松本琢磨・作業療法学科教員	専任
		義肢装具学	30	笘野 稔	専任
		運動療法学	30	松本 晋輔	専任
専門	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	30	常久 謙太郎・松本 琢磨	専任
		地域作業療法学Ⅱ	15	尾﨑 礼果・鷲田 明広	兼任

		地域作業療法学Ⅲ	15	久川 裕美子・寺中 雅智／廣田 聖治	兼任
		地域作業療法学Ⅳ	15	有安 芽衣・楢原 伸二・初鳥 日美・千葉 由香里	専任および兼任
専門	臨床実習	臨床実習Ⅰ	45	有安芽衣・他	専任
		臨床実習Ⅱ	225	山下 徹郎・他	専任
		臨床実習Ⅲ	855	阿部 菜海子・他	専任および兼任
		臨床実習特論	30	常久 謙太郎・他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	関連講義名	開講時期
作業療法の見学	臨床実習Ⅰ	1年通年
評価への参加および実践	臨床実習Ⅱ	2年通年
	臨床実習Ⅲ	3年前期
治療への参加および実践	臨床実習Ⅱ	2年通年
	臨床実習Ⅲ	3年前期
訪問リハビリテーションの見学	臨床実習Ⅲ	3年前期
通所リハビリテーションの見学	臨床実習Ⅲ	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
◯	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己評価・第三者評価委員会
委員名（委員長）	笈野 稔
組織の開催頻度	オンラインツールで随時検討
組織の取り組み内容	・学生による授業評価の分析
	・学生による授業評価の情報共有
	・学校関係者評価の依頼と結果公表
	・第三者評価の受審と結果公表
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://r.kawasaki-m.ac.jp/info/outline.php）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
◯	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	村上 朋彦・笈野 稔・常久 謙太郎・松本 晋輔・森川 芳彦
	改善の仕組みの実際	毎月 2～3 回委員会を開催し、教務に関する検討を実施している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・自己評価は自己点検・自己評価委員会の委員により毎年確実に実施され、結果を教員間で共有し外部にも公表している。確認された問題を見直し改善に向けた対処を行う体制も整っている。学校関係者評価も外部に学校関係者委員会を設置し毎年評価を実施し結果を外部に公表している。これについても確認された問題を見直し改善に向けた対処を行う体制も整っている。リハビリテーション教育評価機構による第三者評価を 5 年毎に受審している。毎年の自己点検・自己評価および学校関係者評価の結果を受けての業務見直しにより、直近の 2024 年の受審では第三者評価でも適格と認定されている。自己点検・自己評価および外部評価を通じて挙げられた問題点や教育に関わる話題について、教員研修委員会が研修会を企画・開催し教育の質の向上や情報の共有を図っている。